

種の概要

鳥取県、徳島県、近畿地方、関東以北の本州、北海道に分布。殻長約3.5mm、殻径約6.5mm(兵庫県産)。殻は薄く黄褐色で、殻表には細かい成長脈が密に現れる。殻形は円盤状で臍孔は大きく開き、殻口は丸く唇縁は薄い。本県を含む西日本における本種の分布は、いずれも標高の高い場所から記録されており、その生息基盤も山地や神社社叢内等の樹木の洞や朽木に限られるようである。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
			○	○	○		○

県内分布

宍粟市、養父市

県内における生息状況及びその他特記事項

CからAに変更。氷ノ山山系の2箇所を確認されている。いずれも生息環境(朽木)の持続性が乏しく、1箇所においては確認個体数が極めて少ない。

保護上の留意点

分布域が限られる上に生息地は局所的で個体数も少ないようである。そのことから県内における既知の記録以外の生息地が確認される可能性は低い。そのため、既知の生息地については現況を把握するとともに、その周辺も含めた環境保全地区、あるいは種を対象とした保護地区の指定が望まれる。



【執筆者】 宇野明